

何年前からかはわからないが、ビデオカメラで実に多くのものを記録に収めてきた。それは、家族の記録であったり、授業の様子であったり、ソフトテニスの試合であったりした。我が家には、おびただしい量のビデオテープがあった。

映像として残したはいいが、ビデオカメラをテレビにつなぎ、再生して見たものはほとんどない。このままでは、せっかくのビデオテープがもったいないとは思ってはいたが、そのまま月日は流れていった。

数年前に思い立って、何本あるかわからないビデオテープの山から60本を厳選した。それらをDVDにダビングした。ちょっとした達成感、満足感があったが、結局そのままにしていた。

月日が流れた。先日、思い立って、試しに一枚のDVDを観てみた。ケースにはよくわからない4桁の数字と録画時間が書いてあるだけだった。再生してみないと中身がわからない。これには困った。一枚一枚再生しながら中身をメモしていくのかと思うと、気が遠くなる思いだった。

ちょっと待てよ。元となるビデオテープを出してみた。すると、1本1本にタイトルがあり、中身もメモしてあった。そういえばそうだった。急にやる気を出し、一枚一枚のDVDにタイトルと中身を転記していった。60枚分を書き終えると、大きな達成感と満足感を得ることができた。

そして、今度は見たいものを選んだ。まずは、娘が生まれたときの映像である。以前から一度、娘に見せたかったものである。ようやく念願が叶った。やはり写真とは違ったよさがある。娘がどんな思いを抱いたのかはわからないが、どうやら次の日に、もう一度一人で見ていたらしい。

数か月前に、実家に預けてあった荷物を整理した。次から次へとお宝が出てきた。その中に、結婚式と披露宴のビデオテープがあった。劣化して見ることができなくなる前にと、早速DVDにダビングした。

これも娘と妻と一緒に見てみた。30年前の若かりし日を娘に見られるのは気恥ずかしいものである。懐かしい方々が次から次へと登場した。お世話になった校長先生のスピーチを聞くことができた。私もあの頃の校長先生と同じ年齢になっている。

それにしても、昔の披露宴である。誰かがスピーチをしても、ほとんど聞いてはいない。あちこちでガヤガヤと盛り上がっている。今と違って、招待者の人数も多い。あの状況で話すのも、なかなかキツイものがある。見ていて何だか申し訳ない気持ちになった。

今では披露宴も、ずいぶんとスマートになったものである。隔世の感がある。どちらがいいというわけではないが、昔の方が見ている分にはおもしろい。おかげで恩師のスピーチも聞くことができた。この校長室だよりに登場していただいている方なので、何だか不思議な気持ちになった。

ふと思い立ってDVDを見たりしたのは、コロナ禍の影響による。これも我が家にとっての新しい生活様式の一つである。60枚もあるわけだから、すべてを見ようとすれば、かなりの時間を要することとなる。急ぐ必要もないわけなので、少しずつ見ていこうと思う。

不要不急の外出をしない、人混みを避けるなどの行動制限により、確かに不自由さはあるが、かえっていいこともあるということがわかった。おかげで貴重な我が家の映像記録にふれることができた。このような状況でなければ、ビデオテープとDVDがお目見えするのは、まだまだ先だったことだろうと思う。何が幸いするかわからないものである。